大木中通信

令和７年４月１５日
４月号　その２
鈴鹿市立大木中学校

ホームページ QR

○対面式を行いました

4月10日（木）、体育館にて生徒会主催の「対面式」を行いました。
2年生・3年生が新1年生との初の顔合わせの儀式です。
吹奏楽部の演奏で1年生が入場し、対面式がスタートです。
生徒会役員や新入生代表のあいさつのあと、執行部の役員の皆さんが、大木中学校生活のルールや委員会活動、1年間の学校行事説明をしてくれました。
最後の大木中学校先生紹介もなかなか楽しかったです。

○部活紹介

10日の午後は、体育館にて「部活紹介」を行いました。
各部活動が工夫をして、新入生に部活の説明をしていました。中には、実演をする部活もあって普段の活動がよくわかる説明会でした。【部活紹介の様子（一部）】

○校舎見学

10日の2限目～4限目の学級活動では、1年生は各クラス別にオリエンテーション（校舎の見学会）です。
1階から3階の利用する特別教室等を回って先生から説明を受けました。入室のルールなどがありますので、しっかり守ってほしいです。
【右の写真は、校長室でのワンシーンです。】

令和7年度　大木中学校　学校経営方針について

1　学校教育目標 「生きる力」を身につけ、未来を切り拓く生徒の育成
2　めざす学校像：生徒と教職員の笑顔が通う学校
～すべての生徒が安心して学べる学校～
3　めざす生徒像
・自ら学び仲間とつながり合い、ともに高めあえる生徒
・自ら考え、全力で行動する生徒
・自らの努力で、未来を思い描き実現するために行動できる生徒
4　めざす教師像
・責任感が強く、生徒の人格と個性を尊重した指導ができる教師
・社会のニーズを把握し、探究心を持って、自主的に学び続ける教師
・豊かな人間性や社会性を持ち教職員や家庭・地域等との信頼関係を築く教師

〇経営方針
1　生徒の確かな学力を保障するために、一人一台端末を活かした授業改善を実践し、家庭学習の充実等の学習改善を図る
2　長期欠席（不登校）生徒に寄り添いながら粘り強い指導を行い、また、いじめを許さない姿勢、ひとり一人の生徒が安心して学べる環境を整える
3　中学校区の小中連携や家庭・地域と共にある学校づくりを推進する
4　非認知能力の育成のため、生徒が自らの考えで目標を持ち、自分の人生を描き選択させ、その目標を認め実現させようとする「やりぬく力」を身につけさせる
5　教職員が自らの成長を望み　やりがいを感じられる職場づくりを実現する

〇達成方策
1「確かな学力の育成」の視点での重点取組
・「授業力 UP5☆ver.2」に基づいた授業改善を推進する
・全国学力・学習状況調査やみえスタディチェックの結果をふまえ、言語能力の育成目的に「思考スキル」を活用した授業づくりに取り組む
・R7年度鈴教研研究発表にむけて組織的な授業改善を推進し、ICTを活用し、主体的に取り組む生徒の育成を目指す
・一人一台端末を活かした授業づくりを推進や家庭学習での活用を推進する

2「安心できる学校」の視点での重点取組
・校内教育支援センター教室の機能を活かした支援体制を推進する
・いじめ未然防止に向けた教職員研修を計画的に実施し、生徒会等の自主的・自発的活動を推進する
・特別支援学級における運営改善と協力学級連携及び組織対応を推進する
・外国人生徒の支援の充実を図る

3「地域とともにある学校づくり」の視点での重点取組
・校長が学校の広報マンとして地域に出向き、地域と学校をつなげる
・学校運営協議会委員と生徒会との意見交流会を開催する
・学校運営協議会で「部活動の地域移行」や「校則の見直し」の協議を深め、保護者や地域と連携した取組につなげる
・図書館の地域活用を計画的に実施する
・大木中学校区小中連携をさらに推進し、9年間の義務教育期間の充実を図る

4「非認知能力の育成」の視点での重点取組
・研修計画等に位置付け、授業・行事・日常生活等あらゆる場面で教職員全体による組織的活動に取り組む
・様々な場面で表現する楽しさを感じ、目的を持って相手にうまく伝えようとする場面を増やし、その姿を積極的に評価する
・授業や委員会活動、部活動を通じて同学年や異学年との交流を通して、互いの考え、多様な考えを交流する場を設定する
・授業、行事等の学校生活や家庭との連携を通して達成感を持ち、自分自身に自信を持たせる

5「職場づくり」の視点での重点取組
・教職員が支え合いメンタルヘルスに留意し相談しやすい職場づくりに努める
・コンプライアンスの醸成に努め、信頼される学校づくりを推進する
・ICT 機器を有効に活用し、効率的に校務等を進め、ワークバランスの見直しを図り、総勤務時間縮減を図る